

「2025年度香港中文大学サマープログラム派遣参加報告書」

京都大学文学部1年 山田 あかり

- ① 今回のプログラムが私の初の海外渡航となったため、様々な影響を受けることができた。留学では授業内での学習が大きな目的であることは当然だが、様々な人との交流も魅力であると今回の派遣で感じた。現地の学生や街中の人だけでなく、京大内の先輩・他学部の人、他大学の人を含めて、今回生活を共にする中で多文化理解への新たな知見が得られたと感じた。私にとって、さまざまな立場の人の理解に努めるということは、学術的にも個人的にも興味があることなので、非常にいい経験となった。そのため、派遣前よりも次回の留学に対してより積極的に考えるようになった。今回は香港という中国圏の中でも外部世界との接点が多く、政治的・文化的に特殊な位置にある地域への訪問だったため、次回も中国圏に留学し、今回との比較を試みたいと考えている。
- ② 香港では、自分が日本にいる時よりも開放的・積極的な性格になったと感じた。そのために、普段の自分では挑戦しようと思わないようなことも経験することができ、有意義だった。例えば、ライオンズロックと呼ばれる山に登り、他の登山者と英語・普通話で交流して励ましあいながら登頂したことは新鮮な挑戦だった。帰国してからしばらくたった今振り返ると、この挑戦は今も自分に影響を与えていると感じた。インドアで運動が好きではなかった自分が、帰国後も積極的に体を動かしたいと感じていることにはすごく驚いた。おそらく、香港で開放的になったことや、ライオンズロックの山頂にいたときの達成感・解放感の余韻がまだ残っているのだと思う。この変化は健康にもいいし、新たな自分を発見できたようで、予想外だが、この派遣で得た最もよい変化の一つである。また、英語だけでなく店員さんや現地の学生に積極的に普通話や広東語で話しかけることで、現地の人と交流することができた。現地語で話しかけることで笑顔になってくれる人も多く、英語では触れられなかっただろうやさしさや親切に触れることができた場面も多かったので、よい挑戦だったと思う。
- ③ 香港中文大学では、語学学習の際に3クラスに分かれたが、京都大学で前期の間だけ中国語を履修した1回生という立場では、適したレベルのクラスがなかった。しかし、難易度が高いクラスに参加し、先輩と同じ授業を受け、高度な中国語に多く触れるという経験ができたことはとても実りあることだったと思っている。中国語と英語で授業が進むため、一語一句を聞き漏らさないように耳を傾け、周囲の人に勉強法を聞いたり先生と中国語でやりとりしたりしたことは、今後の中国語学習におけるモチベーションを高めてくれた。
- ④ 進路に関して大きな影響はなかったが、現在、私は大学院に進むか就職するか迷っている段階にあるため、いつか最終決定を下す際、今回の経験が判断要因の一つとなることはあるかもしれないと感じた。さまざまな学生と進路も含めたさまざまな対話をする中で、自分の中に新たな選択肢が増えたことを感じた。